

9月の植物

シコクママコナ (ハマウツボ科)

学名 : *Melampyrum laxum* var. *laxum*

県内各地でママコナはよく見かけていたが、巖木町の山間部で少し違ったママコナを見かけた。よく見るママコナより花の色がピンク色をしていて美しく感じた。佐賀植物友の会の会員に尋ねるとシコクママコナと教えていただいた。シコクママコナは佐賀県準絶滅危惧種に指定されている希少種であるが、一帯を散策すると意外に多くあるのに気がついた。自生地が限られているので絶滅危惧種に指定されているようだ。

ママコナは半寄生の1年草で、葉は対生する。鋸歯はないが上部のものは刺毛状の歯牙がある。花は葉腋に1個ずつ付くか穂状花序を作る。花の基部に「白い斑点」(写真枠上)がある。シコクママコナはミヤマママコナの変種とされ、茎は高さ40cm程度。葉は長卵形で花期は8~9月。苞は卵形で細く、苞の縁に刺毛状の歯牙が散在する。花の下部は長い筒となり上唇は兜形、下唇は横に広がり3裂。基部に「黄色い斑点」(写真枠下)がある。

分布は本州(東海地方~中国地方東部)・四国・九州。県内では脊振山、経ヶ岳、青螺山などに「ミヤマママコナ」としての記録がある。

名前の由来は「飯子菜(ママコナ)」で若い種子が米粒に似るからとされるが、継子に食べさせたい「まずい菜」ともある。シコクが付くのは四国地方で発見されたからだろうか。

(文責 井手 義信)



2021.9.8 唐津市巖木町

◎参考文献：日本維管束植物目録，レッドデータブックさが2010(植物編)，山溪名前図鑑「野草の名前」(夏)，佐賀県植物目録-1989- 日本の野生植物Ⅲ